F 16　専門外の教師・教生のための家庭科の授業設計および指導法の構成

岐阜大附小　○小島トミ　岐阜大教育　中野刀子

目的　小学校家庭科教育は　各教授者により　指導内容・指導法が違い　一定の指導系を構成することは困難である。また、1人の教授者の作成した教育目標に対して、学習設計を行ってもその利用は1人の教授者の資料として留まることが多かった。そのため学習指導経験の少ない教授者は指導経験の多い教授者の学習設計を適用することは難しい。

また時には家庭科が技術中心的な単なる物作りであると考えられ、技術が先行し、児童の興味・関心が無視され、教授者側の一方通行の授業となっていることがある。

こうした家庭科教育における問題を解決するため、だれもが（家庭科を専門としない教授者及び教育実習生でも）できるような家庭科の学習設計を試みたので報告する。

方法　今回は被服領域の第6学年「エプロンの製作」（全14時間）の設計（指導目標の細目表・指導案・学習ノート）し、家庭科を専門としている教授者と、専門としてない教授者に、それぞれ指導案・学習ノートを用いて授業実践をした。そして、その授業をVTR・テープレコーダーで記録し、両者の指導内容・指導方法を比較検討していった。

結果　家庭科を専門とする教授者と、専門外の教授者自身の認知構造（すなわち、学習内容の把握の仕方）にも大きな違いが見られた。これは家庭科を専門としない教授者は学習ノート指示に終わり、目標をあまり重要としてないことから、今後はVTRやスライドを作成し、指導案・学習ノートを改善して、家庭科専門外の教授者も実践できるように考えていきたいと思う。